

【第7章:鎌倉時代と執権政治】

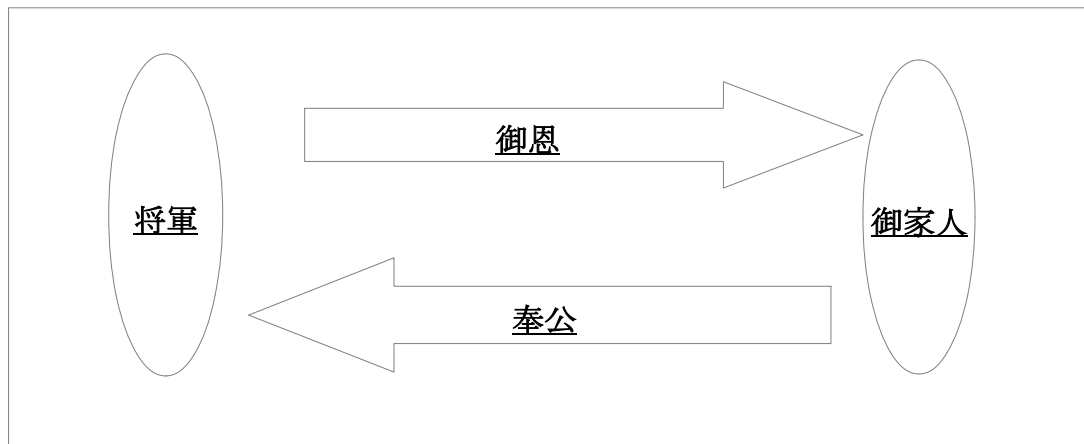
＜鎌倉幕府＞

1185年:守護・地頭の設置を朝廷に認められる。

<u>守護</u> (軍事・警察など)	<u>国ごとに設置</u>
<u>地頭</u> (税のとりたて)	<u>荘園や公領ごとに設置</u>

1192年:源頼朝が征夷大將軍に任命される。

封建制度(御恩と奉公)の仕組み



< 執権政治 >

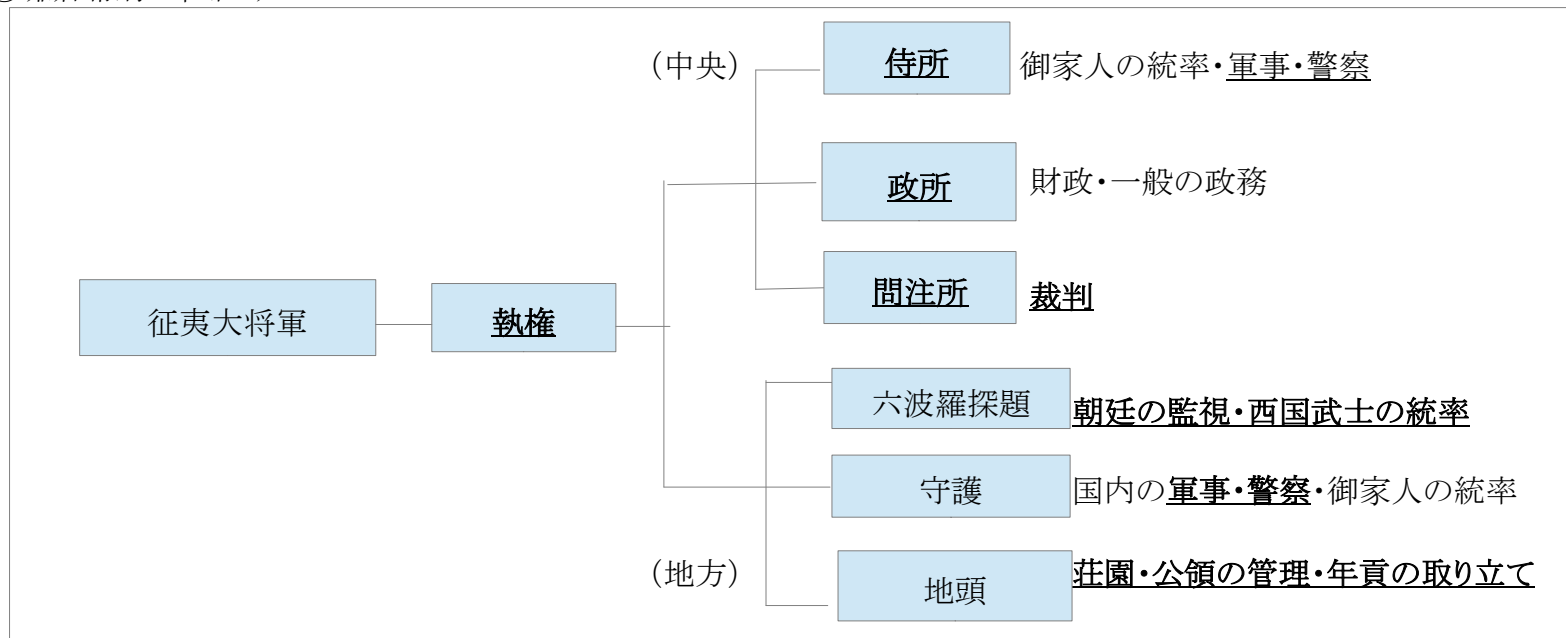
① 執権政治の始まり

源頼朝の死後、御家人による権力争いがおこる。

→ 北条政子と北条時政らが実権をにぎる。

→ 北条時政が執権(将軍の補佐)となる。

② 鎌倉幕府の仕組み



③朝廷と幕府の対立

後鳥羽上皇が幕府を倒すために挙兵

1221年:承久の乱

○北条政子・義時(幕府) VS 後鳥羽上皇(朝廷) ✕

→(結果)後鳥羽上皇を隠岐(島根県)に追放

朝廷の監視などを行う六波羅探題(京都)を設置→西国に勢力を拡大

④御成敗式目(貞永式目)

御成敗式目:1232年に3代執権北条泰時が制定。

裁判の基準を示す

(人々の暮らし)

①武家の暮らし

領地は分割相続。

領地に館を建てて生活し、武芸の鍛錬などにはげむ。

②農民の暮らし

農民に対する二重支配:領主に年貢を納める。

地頭に労役を強制される。

→地頭の乱暴な支配を農民が領主に訴える。

<鎌倉文化>

美術	彫刻	東大寺南大門 金剛力士像 (by 運慶・快慶)
	絵巻物	蒙古襲来絵詞 一遍上人絵伝
	似絵	後鳥羽上皇像
文学	軍着物	平家物語 (by 琵琶法師)
	随筆	方丈記 (by 鴨長明) 徒然草 (by 吉田兼好)
	和歌集	新古今和歌集 (藤原定家) 金槐和歌集 (源実朝) 山家集 (西行)
建築		東大寺南大門 (大仏様、 雄大で力強い) 円覚寺舎利殿 (禅宗様、簡素で整った形)

①背景

鎌倉幕府の成立と発展

②特徴

公家文化と武家文化の並立

→公家中心の伝統文化を受け継ぎながら、**素朴で力強い武士の文化**を反映させた。

< 建築・彫刻・絵画・文学・和歌集 >

① 建築

大仏様: 東大寺南大門

禪宗様: 円覚寺舎利殿

② 彫刻

金剛力士像: 運慶・快慶らによって作られる。
東大寺南大門の内部に

③ 絵画

絵巻物: 蒙古襲来絵詞
一遍上人絵伝

似絵 : 後鳥羽上皇像

④ 文学

平家物語: 琵琶法師により語られた軍着物
方丈記 : 鴨長明が書いた随筆
徒然草 : 吉田兼好(兼好法師)がかいた随筆

⑤ 和歌集

新古今和歌集: 後鳥羽上皇の命令で、藤原定家らが編纂した勅撰和歌集
金槐和歌集 : 鎌倉幕府三代将軍源実朝の和歌集
山家集 : 西行の和歌集

<新しい仏教>

新仏教→念仏・坐禅・題目のうち一つを選び打ちこめばよく、分かりやすくて多くの人々に広がった。

	<u>浄土宗</u> (念仏)	<u>浄土真宗</u> (念仏)	<u>時宗</u> (念仏)	<u>日蓮宗</u> (題目)	<u>臨済宗</u> (坐禅)	<u>曹洞宗</u> (坐禅)
開祖	<u>法然</u>	<u>親鸞</u>	<u>一遍</u>	<u>日蓮</u>	<u>栄西</u>	<u>道元</u>
主な寺院	知恩院	本願寺	清浄光寺	久遠寺	建仁寺	永平寺
主な信者	貴族・武士・民衆	地方の武士・民衆	都市の民衆	都市の武士 商工業者	幕府の権力者	地方の武士

<産業の発達>

①農業の発達

二毛作: 米の収穫後に麦を栽培。
西日本に広まる。

牛や馬の利用 (牛馬耕)
草や木の灰を肥料として使用 (草木灰)
鉄製の農具の普及

②手工業と商業の発達

定期市: 月三回。寺社の門前や交通の要地で開かれる。
商品の中継や運送にあたる問(問丸)が発達。

輸入された宋銭の流通→借上と呼ばれる高利貸しが出現